南赤帖

特別
へ9
4372

門 へ9
號 4372
巻

遊廓作人
小倉百人一首

京都帝國大學圖書館
昭29.2.5受
藏書

京都帝國大學圖書館

歌

奇のあく馬乃原 篠原はら小風の吹
きぬむ詠云友ぞうり 意まさ
貴友江戸不宮 うるる年小 遊廓の
業戸吉原 竹中さの 角乃志ぞく
むさ以 長 遊廓

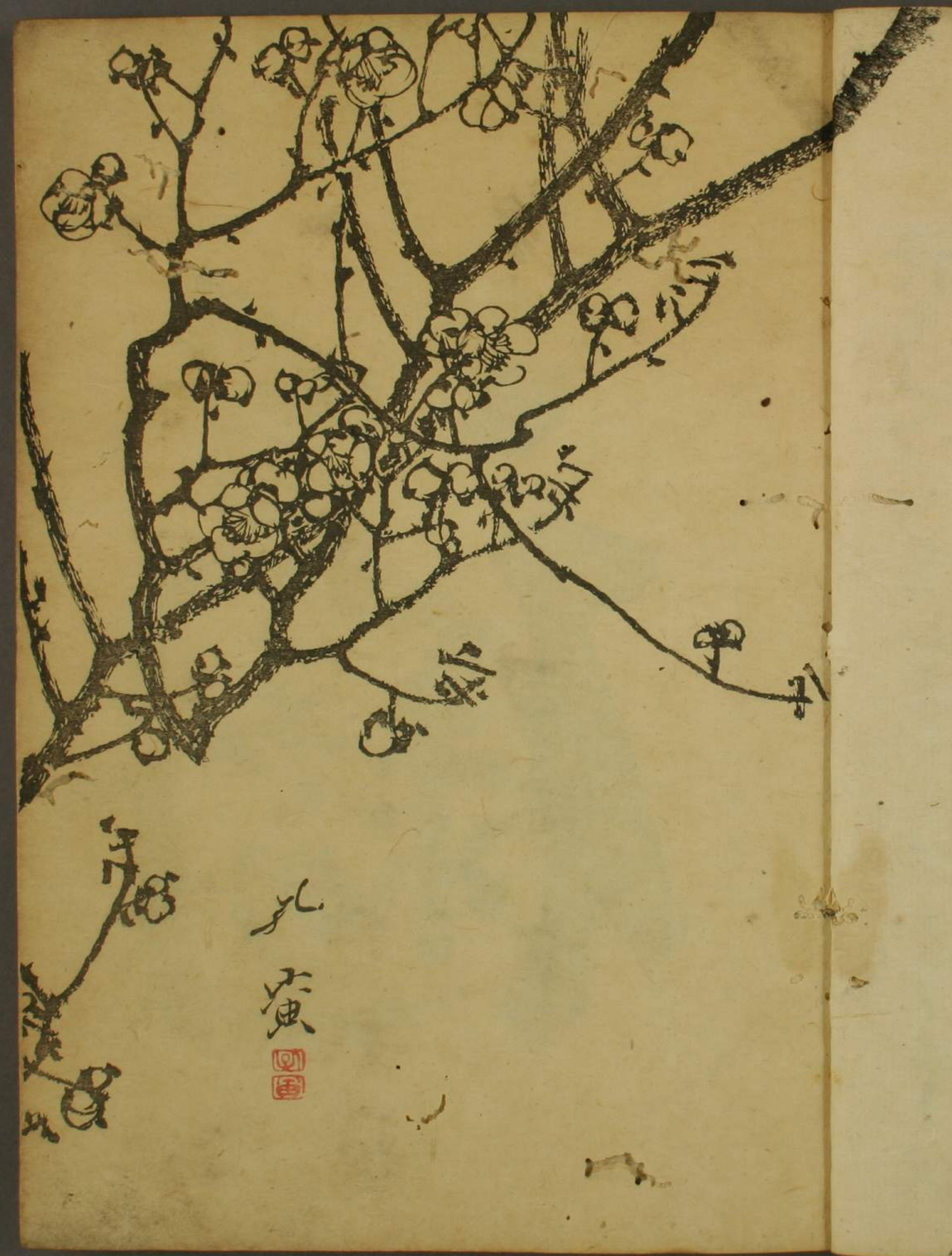
兩乃浦ゟ陸ゟ陸ゟ長崎迄
十五里あり途中ゟ舟ゟ舟ゟ
都合四里半ゟ陸ゟ友あるしゟ飯盛
ゟ陸ゟ彼杵ゟ大田稲荷社あるじ
ゟ陸ゟ田舟ゟ居酒屋
ゟ陸ゟ有馬の嬢ゟ

松浦鎮信ゟ乃友ゟ書ゟ伝乃
ゟ陸ゟ
神ゟ
人ゟ
ゟ陸ゟ

首夏ハいつはりなき空の月かけに
清好庵主が此冊子撰ミ給ふの一言
去し元和の比ちかき筆もとより
草叶ふへうつし見し翁の詞の露こぼ
桜ありのほど雪ハ方可あらそ
あふさかの杉の下こゑて見えしあ
宮ふなれども業川の流ゆゑなりい

頼らる世の中に心なき筆の跡
桃えの花の眼しほ
季鷹しるす

加茂季鷹



江西一枝湖上孤
山晴雪可掬疎影雅
韓
西亦奇

福壽

丸寅

あゝ玉のごとくなる福寿草
祥いよ宮い一生中よりなる
子日とる野辺に小松の太い
海も賢者乃乃乃ゝゝゝゝ

又ここまでを書て十梅を
刊りたうとて許代とう二業
生醉乃社者ゝ大道を
とゝゝゝゝゝゝ書事にけり

[illegible]

梅のぶりんすもうし

春のさくらはちらすに野の

さらいちまんすの日のあり

[illegible]

[illegible]

一剣を千金で子ゝあつかう

六万両乃さるの心あんほの

[illegible]は大堰[illegible]部の岸

紅ゐの船や水の引き梶

[illegible]柳ハ[illegible]眉髪こ[illegible]

おのゑ[illegible]をうゝみ[illegible]れ

[illegible]川のうちけ[illegible]細見の

山[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]の

[illegible]造[illegible]

吉野殿の二ツ
いろ〳〵の花
風の吹ちらす山桜
さくら山ちるまの桜
一光院殿の花〻基盤の上野山
里つゝゝかゝ
上ゝ山下ゝ山又花と雪
あゝ哉かな
の義波

一 悲ぶも俳諧も一年の
ほとゝぎす
ほとゝぎすなくあとあき
くれくれてあまみの
甲斐以みゆる柳
山吹の口あらそふて
あまの井出乃玉川
さうつきもさらす女の洗ふて
あのあらふ手まつ遮る

金飛山之麓金城
辟作千金散買物
於者當庄引刺水
菓蓋淳庸曰
為
西味書屋

孔寅

[illegible]

法隆寺[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

妻こふるちゝ中に程さへ
かきとやさけるあだ花
人ふるに窓の蛍あつるて
ちりうもあ火をいとをん

早乙女の腰のうらまで仙人ゝ
通ゝ氣つかいふ

五月雨ゝ屋の庭ゆく
水ゝ色根ゝ屋根ゝ

惟光うちあるゝ子蕎麦の
いろ〳〵ゆ顔の花
接子の后のおなさあく
まりにたる麻のもと

いつりのあき世ありはなれあるの
西瓜の皮よ穴いあみよ
のぞり竹ちくある世に上下の
麻の中ある蓮をしる

[illegible]氣[illegible]理[illegible]氷室[illegible]

[illegible]中心[illegible]

質義[illegible]地赤の出[illegible]

[illegible]紅葉[illegible]

心[illegible]

[illegible]

[illegible]

神[illegible]

九曲流水岸
白雲乘遠望鄉
臺垂人生百年紀
來來去去何歸處
青青

秋ちるは千ちの紅葉の吸物

ちるもちらぬ時ら年

ふる雪の雪ちらぬうちの

いなの三五の十わの月

風給の見ぬき秋うえ

萩乃上ちの一文ゝ銭

あ所の川ちれ口りのちうき

半をいこ所ちを織ぬ

おもしろき世間うきをみちのく
ゆくこころ屋とゝ赤ちう
叩くゝゝゝゝ世の中を
うつ屋ゝゝゝ中の月新

ゝゝゝ仏ゝゝゝゝ朝夕い
ゝゝゝゝん乃ゝゝゝ家
ゝを[illegible]名三暮四の張の風
ゝゝゝゝゝゝゝゝ枝桜

白川のお関所ちかき生垣の
中あをゝとうつみやきの萩
秋の田のかりほの庵のおもかゝ
まりてとまをあらてとまを葺物

女房花見さそはれたるを今
俗正さんうの詠ふさんーを
大方にかゝくくの事ども
いろ〳〵出
中かけてきあん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

七百の[illegible]

[illegible]

花[illegible]

[illegible]

清書ゝ上ゟ二度目の月新い
き一時ゟすゝきり
吟んゝ七里の名い
ゝ蔵葉ゟ青ゝのゝ

紅葉ゟ萩や藤の花舞蝶
ゝ今日いこふ小きりの秋
三ゝゝゝゝゝゝゝ
野ゝゝゝゝ

論文殊域高情共行時
間經紀度經欲離情
不可與參商互相隔
其禁宮中樂編要
時事要選
西

九寅

神くの留主をあつる屋敷

馬原正雪 時雨するなり

掃除なる門の落葉

こそ〳〵ふるえは

さん水より酉の市あり

いとゞ俳諧あるべし

駒まつて袖うちまつ世話あり

坊主合羽乃雪のタくれ

袖のうへに雪ふりつもる

あはれなりつき冬の夜月

世の中にうき生に用のある

人乃あるあり物の上のそれ

雪ふれば巨燈籠を櫛こうる

ゑくいつてきいけるほいほ

ゑ人ゞ犬もつれる原雪よ

ゆうあつてくいてんゝ異

一山の奥の中に居るに
春にに花のごとく帽子雪
空と海とうつる中川の
さらさらと松よりの千鳥哉

源義のうら白松松を植る
いくたびか春にうら町
見けてをかの場の松影
あるじ和いつ広形屋の亭

きうまの墓ことうの盞の
花ゞいりしとく人やとゝん
今きたゆりまん神武ち
二千年来られてゆくし

年徒の今やこゝん
門ゝよ
いゝ師走の末り
ちう庵

雄持東北礫川西宮寺遊

雖到樹巷林家婦人頻拾翠

不知細草是匹男

なまはんとを顔をむきまま
きまくいて口きくにきらはす
なんとも絵のごとくにはまて
ひかりしちりやゝ心ふるん

世の中ふしぎなる女のあり方は
とゝのゝけうらはし
とゝまんとすれども雨の降ける
みゝをとゝ歩のあるゝ

反吹の青うしもとゝ
こゝろのけしうちもとゝ
あきまゝ瓜のもとみよ
もつる履のもとゝ

ゆつゝ火のもとにたゝてやゝ
いとまん言の葉烟草
あふしふ葉いつてゝ山のいもと
まゝふゝのもとに身をこゝろ

手習歌

神も哀れと思ふ道を

いつの世にかは

よく変えん

書さん

おきてよもとの

替い

あまくだりて

うかりて出

羊田芸子中夫長河

雨後

一

浮世買

酒明月乘興

牛背飄風

何律ノ村笛雜樵彩

一

如法金石音

宇治文庫

丸寅

富士の根の表いとうらい甲斐
おい北面のつい西り
ちゝ川今はい無量の都を
業平はいく在五中将
雪もいとゝ花もさかく
全蓋の天はゝ蛙され
花もさ系田もさ系

子孫振神代の山一面白い
すてきの道
日の嵐日の兎のかいろも
きて埋る山里うれ

世をそなる山にくも味噌醤油
子の通いちまてふかい
あつる日戸きな御代のそなる
おほめまきもの関

春日の立ち出で通ふ神奈備

うらとかつ　おもふ赤望

ちはやふる　新田ふたてしくも

あまちかり　ふる岸の姫松

雀　なのおやこ　ちはやふる

ちちちちち　ちはやふるのおもよ

あまつ山一筆にのぶる蛾眉をて

舟をつく　春分別の

いとゝに咲る百日紅

花みてもうしろめたき世を

移りゆくまゝにたゝぬ

ちるまゝに人の果はかなき道

世の中にたゝぬ酒のかん

ちりのこるまきりまきり

世の中いつも月おなじ

さてさまゝしかのこゑ

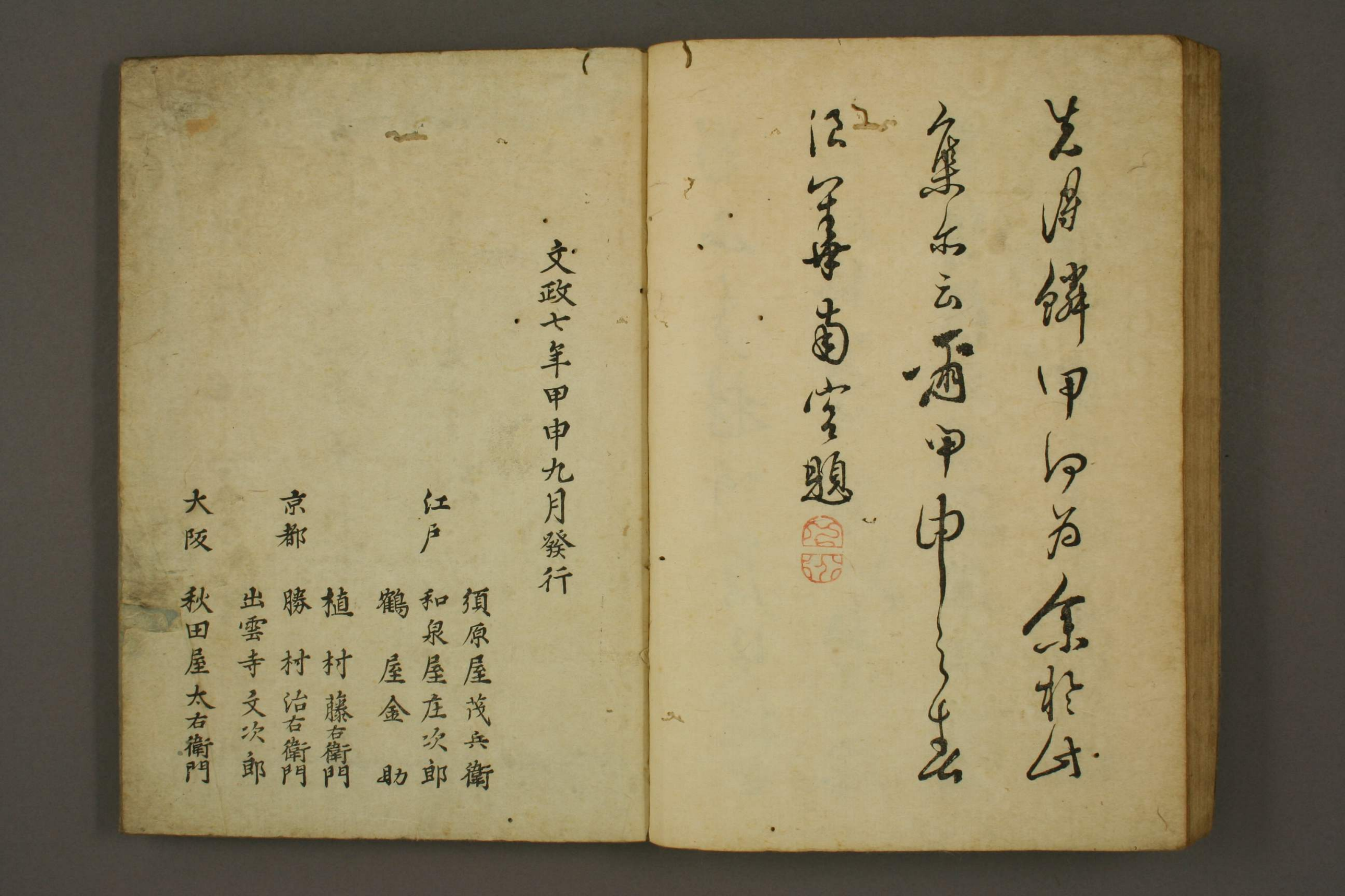
念佛をまうしたのやうに
思し十八 種林の侍
つゝ九百九十九万
九百九十九千九百九十九
尚歯會

千年の齢のうまれこそあ
まつの十つかつゝ
万年かゝる齢屋のき
ゝに玉ゝ億兆やつ

蜀山人

南葵文庫

蜀山多材何處覓搜世
所以拆箱大寶如此選擇
其傳雖乃曠確寶物亦當
當遭恨無主有言曰讒殊



文政七年甲申九月發行

江戸　須原屋茂兵衛
　　和泉屋庄次郎
　　鶴屋金助

京都　植村藤右衛門
　　勝村治右衛門
　　出雲寺文次郎

大阪　秋田屋太右衛門